

行政視察 横塚 剛 議員

日時：令和8年1月14日(水)～1月16日(金)

場所：熊本県山鹿市、宮崎県小林市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野新都市BT～羽田空港	バス	往復	205.0				7,800	7,800
往：羽田空港～福岡空港 復：宮崎空港～羽田空港	飛行機	往復	1,935.0			41,500		41,500
福岡空港～熊本	鉄道	往	118.4	2,680	3,220			5,900
熊本駅前～山鹿市役所入口	バス	往	32.2				1,280	1,280
山鹿郵便局前～市役所前(熊本)	バス	往	30.6				1,060	1,060
熊本城・市役所前～辛島町	鉄道	往	0.6	200				200
辛島町～熊本駅前	鉄道	往	2.2	200				200
熊本～新八代	鉄道	往	32.9	760				760
新八代駅前～宮崎駅	バス	往	154.6				4,500	4,500
宮崎駅～小林駅	バス	往	49.1				1,810	1,810
小林～宮崎	鉄道	往	85.8	1,930				1,930
宮崎駅～宮崎空港	鉄道	復	6.2	400				400
計				6,170	3,220	41,500	16,450	67,340

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	67,340 円
(うち航空運賃)	41,500 円)
計	100,340 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 亀田 昌久 

令和7年度創政クラブ行政視察報告書

期日：令和7年11月12日(水)

12日(水) 衆議院第一議員会館

参加者：久保 貴洋 澤田 裕之 栗崎 卓二 茂木 明男 横塚 剛

田邊 直美 堀川 悦朗 以上7名

作成者 横塚 剛

1. 空き家対策について

質問事項

① 佐野市におきましても人口減少や高齢化率の上昇に伴い、空き家の数は増加傾向にあります。これまで空き家対策として、空き家バンクの創設、特定空家等除却に伴う補助制度の創設などの取り組みを進めて参りました。この間に国の空き家対策としては、民法の一部改正（令和3（2021）年4月公布）により相続登記義務化関係の改正や、また「相続等により取得した土地所有権の国庫への帰属に関する法（令和3（2021）年4月公布）」の創設や、令和5年に空き家対策特別措置法が改正され、新たに管理不全空き家の認定制度が設けられるなど、国においても対策が進められてきました。

現在、佐野市としては、空き家等の利活用や除却を上回るペースで新たな空き家が発生しており、その数は年々増加傾向にあります。また、高齢者世帯で子どものいない世帯が増加しているため、一層空き家が増加すると予想されます。適切に管理されていない空き家は、草木の繁茂による害虫の発生や倒壊の危険性で周辺住民の生活環境に悪影響を及ぼしています。

このような地方自治体の状況を踏まえて、国の今後の空き家対策を教えてください。

② 現在、空き家の所有者が、空き家の解体を行えない理由として2点考えられます。一つ目は、解体費用が掛かることです。二つ目は、建物を解体した後に土地の固定資産税の特例措置が無くなることで、固定資産税が約3倍になることです。住宅用地については、固定資産税、都市計画税が課税標準に基づいて課税されます。住宅一戸あたり200㎡までの小規模住宅用地については、固定資産税の課税標準の6分の1、一般住宅用地は課税標準の3分の1に軽減されます。

望ましい一つの方向性としては、みなし規定が想定されます。被相続人の住宅を相続人が取得し、相続人に既に居住している住宅がある場合に限り、建物を解体しても建物が有るとみなすというものです。市は、固定資産税をそのまま課税し、土地の所有者は住宅用地の特例措置を継続して固定資産税の軽減が適用できれば、所有者においては新たな負担は発生しません。市にとっては土地の固定資産税はそのままです。しかしながら、みなし規定により不適切な管理の空き家が減少することで、地域の生活環境への悪影響の除外、防災・防犯性の向上に貢献すると考えられます。また、相続税の小規模宅地等の特例も適用されない為、二重の軽減措置は受けられません。

この固定資産税の特例を地方税法で創設することなど今後の検討方針について伺います。

報告書

国土交通省 住宅局 住宅総合整備課 住環境整備室 課長補佐 柿坂 拓也
同 民間住宅管理係長 伊藤 一真

考察

全国的にも空き家については問題になっているが、地方に行くほど空家数が増えているのが現実です。特に使用目的のない空き家の増加が顕著であることが分かりました。空家等対策の推進に関する特別措置法などにより、特定空家等の除却等に関する詳しい内容を把握することができました。佐野市においても空き家対策は移住者支援に活用などを行っていますが、税制上の問題や相続により管理する方と連絡が取れないなどの諸問題がありますが、固定資産税などの税制改正も厳しいようです。市町村単位で出来ることを今後考える必要があるのではないかと思います。

2. 持続可能な介護施設の運営について

質問事項

- ① 高齢化の影響で要介護者は年々増加しています。それに伴い、介護サービスの利用者が増加することは確実です。この状況を鑑みると、介護サービス

の充実や介護職員の確保・育成を進める必要があります。しかし、介護業界は人手不足が深刻です。ますます少子高齢化がすすむ日本では、これから現役世代が減少していきます。人手不足の解消には、介護職員の待遇改善や労働環境の改善、働き方改革の推進など、労働者を取り巻く環境を包括的に改善していく取り組みが必要です。特に高齢化率が急速に高まる地方においては、介護人材の確保と育成は喫緊の課題であります。

このような介護施設の介護職員の待遇改善について、国の今後の取り組みについて教えてください。

- ② 特別養護老人ホームを設置する際、経営安定のために地価の安い場所を求めざるを得ない時期がありました。その結果、高齢者施設の一部は、川沿いの市街化調整区域に建設されています。近年、災害は、激甚化・頻発化する傾向にあります。例えば、2020年7月の豪雨では、熊本県球磨村の特別養護老人ホームでの甚大な被害が発生し、多くの高齢者の方々が犠牲になってしまいました。この被害の原因の一つとして、浸水ハザードの危険性が高い場所に施設が建設されたことがあげられます。

川岸に建設された特別養護老人ホームは、設置から相当の年数が経過しており、施設が老朽化しています。新たに建て替えを検討する時期を迎える施設があります。既存の立地に建て替えることは確かにコスト的にメリットがあります。しかしながら、災害による被害リスクを引き続き抱えたまま生活することになるという点も考慮する必要があります。

そこで、ハザードマップに指定されている地域にある特別養護老人ホームが、新たな安全な場所に移転・建て替えする時に利用可能な補助金の創設について伺います。

報告書

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

マンパワー企画係長 指導育成係長 水津 秀幸

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室

主査 小林 美穂

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 施設係 神田 真歩

同 老人保健課 企画法令係 鶴巻 明梨

考察

国は、介護人材不足に処遇改善手当やITやロボットなどの支援をおこなっているが、現場サイドにその支援は届いていないのが現実です。給与面においては、平均給与所得で、一般的な会社員と介護職員では100万円近くの格差があるのが現状です。まずは介護保険の根本的な見直しを図らないと、処遇改善手当や助成金では無理だと思います。現場としての意見を伝えましたが、あまり良い回答はありませんでした。早急にこの問題を解決しないと介護崩壊につながります。今後も佐野市において介護職員の処遇及び施設運営の為に助成金などを提案していきたいと思っています。ハザードマップに指定されている地域にある特別養護老人ホームについては、助成金はでていますが、現実的に考えて無理だと思われれます。それであれば災害が起きて被災した時を想定した危機管理を考えたほうが現実的だと思います。佐野市においても介護施設間で被災した時の相互協力協定などを提案したいと思います。

令和7年度創政クラブ行政視察報告書

期日 令和8年1月14(水)～1月16日(金)

14日(水) 熊本県山鹿市 農業支援プロジェクトについて

15日(木) 宮崎県小林市 「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトについて

参加者 久保 貴洋 澤田 裕之 栗崎 卓二 茂木 明男 横塚 剛 田邊 直美
堀川 悦郎

作成者 横塚 剛

山鹿市 農業支援プロジェクトについて

質問事項

佐野市においては、農業を取り巻く現状は厳しさを増して来ています。高齢化と担い手不足は深刻な状況です。農業従事者の数は年々減少しており、同時に平均年齢も上昇しています。新規就農者数も減少傾向にあり、担い手の確保が非常に困難な状況です。また、このよう影響で耕作放棄地が増加して、近年では獣害の被害拡大の一因となっています。

山鹿市においては、山鹿市担い手育成総合支援協議会などにおいて、新規就農に向けた支援(相談・準備・就農開始)や新規就農後の支援などにより、新規就農をサポートしています。山鹿市の取組みを研修させて頂き、本市の農業行政の参考にさせていただきます。

- 1.山鹿市の農業の現状について教えてください。
- 2.農業支援プロジェクトを立ち上げた要因を教えてください。
- 3.就農相談は、令和4年度から令和6年度の3年間で毎年どれくらいの相談件数がありましたか教えてください。また、そのうち実際に就農した人数はどれくらいだったか教えてください。
- 4.就農相談で重要な役割を担っている山鹿市担い手育成総合支援協議会について教えてください。
- 5.農業経験がない方が、インターンシップで農業の現場体験が出来るとあります。具体的にどのような農業体験ができるのか教えてください。
- 6.山鹿市では、「やまが和栗」やスイカ等、収益性の高いブランド品目をお持ちですが、就農相談の段階で、市として推奨する品目への誘導はどのように行っていますか教えてください。また、未経験者が難易度の高い品目や、初期

投資のかかる品目を希望した場合の「マッチングの調整」はどのように行っていますか教えてください。

- 7.就農への意思を確認した場合の選択肢として、農業法人等へ就職とあります。現在、何社に依頼して、主にどのような農業を営んでいる法人ですか教えてください。
- 8.就農者の育成には、受入農家の協力が不可欠ですが、指導する側の農家にとっては時間的・精神的な負担も大きいものと思われます。受入農家を継続的に確保するために、市や協議会として受入農家側にどのようなメリット(指導料や助成)やフォローを提供されていますか教えてください。
- 9.新規就農者育成総合対策(就農準備資金・経営開始資金)について教えてください。
- 10.移住就農者にとって「住居」と「条件の良い農地」の確保が最大のハードルになりがちです。山鹿市では協議会が中心となってマッチングされているとのことですが、市場に出てこない「空き家・空き農地」をどのように掘り起こし、所有者を説得して貸し出しに繋げているのでしょうか。コーディネーター等がいるのか教えてください。
- 11.就農に向けての準備で農地・施設・機械・住居・資金等とあります。どのような内容なのか教えてください。
- 12・仮独立期間の経済面・資金面の支援の中で、青年等就農資金等とあります。この内容について教えてください。

報告書

山鹿市農林部農業振興課 担い手支援係長 山口 儀一郎様
同 担い手支援係 白石 直之 様
熊本県県北広域本部 鹿本地域振興局 農林部 農業普及・振興課
担い手・調整班 主任技師 藤井 祥一朗様

山鹿市の概要

山鹿市は、熊本県北部の内陸に位置しています。山鹿市は、平成17年1月に1市4町の合併により誕生した自治体です。熊本市から北側へ約30kmで、北部から北東部にかけて福岡県、東部で福岡県と接しています。中央部よりやや南寄りにある中心市街地から南部にかけては盆地となっています。市の北部に

は、標高千メートルを超える山々が連なり南部の豊かな田園地帯を育んでいます。本市の面積は 299.69 km²あり、人口は令和 7 年 12 月 31 日現在で 47,378 人です。主要産業は、農林水産業です。農業では、米、栗、スイカなどが有名で、畜産業は、和牛、豚、鶏などが盛んです。観光では、山鹿灯籠まつりや山鹿灯籠民芸館、八千代座が知られています。

別紙

山鹿市農業支援プロジェクトについての質問事項の回答といたします。

考察

熊本県山鹿市の「農業支援プロジェクト」は、少子高齢化や担い手不足といった地域課題に対し、新規就農者の確保と収益力の強化を両軸に進める戦略的な取り組みです。

山鹿市は、中山間地から平坦地まで多様な農地条件を持ち、西日本一の生産量を誇る「栗」などの特産品に恵まれています。しかし、以下の課題が顕在化しています：

- 担い手不足と高齢化：労働力不足による耕作放棄地の増加。
- 所得の向上：高収益作物の導入による農業経営の安定化が急務。

主な支援策と取り組み

市・JA・県が合同チームを組み、多角的な支援を展開しています。

- 新規就農支援：

- 他自治体からも視察を受けるほど、組織的な支援体制が評価されています。
- 就農前後の経済的支援に加え、相談窓口のワンストップ化や農地情報の提供が推進されています。

山鹿市の農業支援は、地域特有の産品（栗、茶、メロンなど）を軸にした「稼げる農業」への転換と、外部人材を惹きつける「手厚い伴走支援」が噛み合ったモデルケースといえます。

佐野市においても山鹿市のようにJAとの連携を図り市街からの就農につながる人材の確保をすれば、農業の発展と人口増加につながるのではないのでしょうか。

小林市 「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトについて 質問事項

佐野市においては、令和7年2月に佐野市PR動画「さのまる、失踪!？」動画を第1話から第5話まで作成し佐野市公式YouTubeチャンネル「SANNO-PR-TV」で公開したところ、大変大きな反響を呼ぶことが出来ました。

小林市においては、市民や出身者をはじめとした多様な主体の力を合わせて市の魅力発信を展開し、郷土愛の醸成や関係人口の拡大につなげる「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトをスタートさせました。小林市の取組みを研修させて頂き、本市の情報発信の参考にさせていただきます。

1. 「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトを立ち上げた要因を教えてください。
2. 「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクト全体として、立ち上げ時にどの指標（SNSフォロー数、ファンクラブ会員数、ふるさと納税額、移住相談件数な

- ど)を主要K P Iとして設定されましたか教えてください。
- 3.吉野北人さんとのコラボ企画では、吉野さんが小林市の魅力を伝えるプロモーション動画を15本公開しました。どのようなコンセプトで作成しましたか、また、動画を観た視聴者はどのような意見がありましたか教えてください。
 - 4.吉野さん主演のPRムービー15本の作成費用はどれくらいかかりましたか教えてください。
 - 5.「ハッシンコバヤシ!!イワクラ、小林を食べつくす」では、小林市出身の蛙亭・イワクラさんが主演を務め、郷土料理などを紹介しています。イワクラさんが出演したきっかけと、動画を観た視聴者からはどのような意見がありましたか教えてください。
 - 6.イワクラさんが出演を務めた「ハッシンコバヤシ!!イワクラ、小林を食べつくす」は、作成費用はどれくらいかかりましたか教えてください。
 - 7.吉野北人さんコラボやイワクラさんコラボなど、比較的成本がかかる施策について、事前にどのような費用対効果(想定閲覧数、イベント来場者数、グッズ売上、ふるさと納税増など)を試算し、投資判断されたのか教えてください。また、実績値を踏まえて、今後どの指標を最も重視していく方針なのか教えてください。
 - 8.「ハッシンコバヤシ!!」は色々魅力的な動画が沢山あります。これらを考える方はどなたなのか教えてください。
 - 9.「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトについて、市民の皆様からの反応や意見がありましたら教えてください。
 - 10.「ハッシンコバヤシ!!」の動画を制作するにあたって、難しかったことを教えてください。
 - 11.「ハッシンバヤシ!!」プロジェクトについて、今後どのような企画を考えているのか教えてください。

報告書

小林市総合政策部 地方創生課 課長 小久保 圭子様

同

プロモーショングループ 主幹 鶴田 健介様

小林市の概要

小林市は、宮崎県の宮崎市の西北西約 60 kmの場所に位置し、北東部で熊本県と、南西部で鹿児島県と接しています。小林市は西諸地域における最大都市であり、西諸圏域の産業・経済等において中心的な役割を担っています。本市の面積は 563.09 km²であり、気候の特徴は、夏暑く、冬は冷え込む内陸型の温暖多雨地域です。豊かな自然環境は重要な自然遺産として評価され、「霧島ジオパーク」に認定されています。本市の人口は、令和 7 年 12 月 1 日現在で 41,206 人です。小林市の主な産業は、農業です。特に、畜産業(肉用牛、養鶏、豚、生乳)が有名です。宮崎牛は、「畜産のまち小林」を代表するブランドです。

別紙

小林市「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトについての質問事項の回答といたします。

考察

宮崎県小林市のプロジェクト「ハッシンコバヤシ!!」は、単なる観光 PR にとどまらず、市民・出身者・ファンを巻き込んだ多角的な地方創生施策として考察できます。

このプロジェクトの核心は、以下の 3 つの「ハッシン」をキーワードに、市の「関係人口（特定の地域に継続的に多様な形で関わる人々）」を拡大させる戦略にあります。

プロジェクト名には、3 つの異なる意味が込められていま

- 発信: 市の魅力を外に向けて広く伝えること。
- 発進: 新しい形やアイデアで次の一步を踏み出すこと。

- 発振: 共感や驚きといった心の「振動」を巻き起こすこと。

単に情報を流す（発信）だけでなく、これまでにない手法（発進）で、受け手の心を動かす（発振）という重層的な狙いが見て取れます。

「ハッシンコバヤシ!!」は、ターゲットや手法を分けた複数のフェーズで展開されています。

小林市出身の THE RAMPAGE・吉野北人氏をメインキャラクターに据えた

「Season」制のムービーを制作。特に若年層やファン層をターゲットに、ロケ地巡礼（聖地巡礼）を促すワードラリーや限定ポスターの掲示、さらにはふる

さと納税の返礼品との連動により、実利的な経済効果も狙っています。

- 「インナー篇」と地元おじさんの起用

プロジェクトの第1弾では、あえて地元のおじさん3人組を登場させる

「手作り感」満載の動画を公開しました。これは、外への発信だけでなく、

市民自身が地元の魅力に気づき、郷土愛を醸成する（インナーブランディング）ための戦略的なアプローチといえます。

- 多様な才能とのコラボレーション

お笑いコンビ・蛙亭のイワクラ氏を起用したグルメ紹介など、小林市に

ゆかりのある著名人を幅広く活用し、多角的な切り口で市の魅力を伝えていきます。

このプロジェクトの特筆すべき点は、「ファン（推し）」の熱量を「地域への関心」へと見事に転換させている点です。吉野北人氏をきっかけに市を訪れるファンに対し、ロケ地マップの提供やワードラリーなどの「体験型コンテンツ」を用意することで、一過性の観光ではなく、小林市という場所自体に愛着を持ってもらう仕組みを構築しています

佐野市においても、さのまるだけではなく、佐野市出身の芸能人やスポーツ選手のプロモーションを違った角度から行い、佐野市の魅力を発信してみてもどうかと思います。